

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

17

運命の再開



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやしマンガ同人誌

つれづれ草

マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄
(著者少年ジャンプ連載「男のつれづれ草」の作者の父)

日時：10月20日(金)～10月29日(日)
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

会場：森下文化センター1F展示ロビー
お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





17、運命の再開

私の中にある「Kōくん」との記憶は、高校二年の時に同じクラスになってからだ。それまでは私の中に彼とのはっきりした思い出はない。

高校の非公式文芸同人誌「磯枕」のメンバーのひとりだった、彼の書く作品は、唯一無二の個人的な世界観を持つ、才能溢れるものだった。

当時の私は、彼の才能を認めながらも自分のマンガとの接点を感じることは無かった。

高校を卒業してすぐ後に、今の妻と三人で北海道旅行に行った経験は、その後の私の生き方に大

きな影響を与える物だった。彼にとっても大切な経験だったのだと思う。

それ以来約10年あまり、彼とはまったく接点が無かった。

正久保橋での運命的再開

銀英社でのデザイナーの仕事中心の生活になっていた頃で、結婚した後だったと思う。

何か用事があり、練馬区氷川台の実家に行った帰りに歩いて桜台の駅まで行く途中に、石神井川の正久保橋を渡ったところで、止まっている車が

目に入った。

車から降りてきたのが「Kokun」だった。高校卒業した後勤めていた会社を辞めて北海道へ自分探しの旅をした後、お歳暮の配達のアルバイトをしている途中だった。

私はこれが運命の再会だと思った。

彼に銀英社に入ってもらいたい、私のチームのメンバーになってもらいたいと考えたのだ。

彼の文章表現の才能があれば、必ずパートナーになってくれると確信出来た。

私が誘ったタイミングが良かったのか、Kokunは銀英社に来てくれることを受け入れてくれた。

文字のプロになって欲しい

当時銀英社は、参加メンバーが皆違った才能と

技術を持った人間の集まりだった。それぞれが自分の特技を生かした仕事をして、その収入を一旦会社に入れてそこから給料をもらうシステムだった。

Kokunには、他のメンバーの誰も持っていない何かを身に付けてもらうことで、銀英社の中で彼の居場所を作ってもらいたかった。

私は彼に、入社早々「写植の学校」に行つて勉強してもらった。社内の誰も持っていない写植の技術と知識を得て、編集件ライターとして会社の中で他のメンバーと同等のステージに立つてもらいたかったのだ。

私の心配より彼の個性と努力で、Kokunは銀英社に入り込んでくれた。

「テレビランドわんぱく」の 単行本シリーズ

これが、私とK○くん二人の人生を大きく変えていく仕事の「芽」だった。

私の担当していた徳間書店「テレビランド編集部」から「テレビランドわんぱく」という単行本シリーズの「なぞなぞ1111問」という企画を、企画編集執筆デザイン全てを一冊引き受けて欲しいと依頼が来た。

K○くんが編集担当で私がデザインと進行を担当する形でこの仕事を引き受けた。

1111問と言う大量のなぞなぞの問題を新しく作って一冊の本にまとめると言うことでもなく大変な仕事だった。しかしK○くんは、若いライターやマンガ家さんにたくさんさんのなぞなぞの問題

を作ってもらい、それに添えるマンガのカットも1111枚描いてもらってそろえてくれた。集まった問題とカットを私が本の形にレイアウトデザインして単行本は出来上がった。

人気はあったが、その作業の大変さに誰も引き受け手が無かった企画だった。

この仕事で、私とK○くんの二人のコンビが誕生したのだった。



「なぞなぞ1111問」(徳間書店発行)

「K○く○」の活躍

ケイブン社の大百科シリーズでは、「ドクトルこいこけ」と言うマッドサイエンティストのキャラクターで本の中に登場したり、マンガ雑誌「わんぱくコミック」の「ファミコン突撃隊」の中では「ハブいちろつ」と言うキャラクターとして

登場して人気者になり、その個性を生かして大活躍したくれた。

正久保橋での再会が全てのはじまりだった。

そこから約20年余り、私の相棒として苦労を共にしてくれた「K○く○」には感謝しかない。



「地球の謎大百科」(ケイブン社発行)



「ファミコン突撃隊」(徳間書店発行)